

院内システムをアストロステージの製品に統一したことで  
保守料がコストダウンし問い合わせ先が簡略化



山本祐司院長

導入経緯

電子カルテ導入と共に  
院内システムの一新を検討

電子カルテ導入の検討時に、文書管理システムの選定としてアストロステージを検討していました。

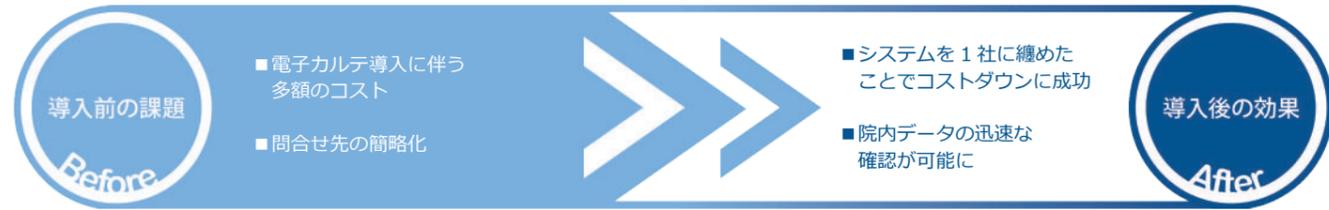
また、院内の PACS サーバのデータ保存領域の枯渇によるサーバ拡張費用が高額だったこと、内視鏡画像サーバのリプレースというタイミングが重なったこと、STELLAR のデモを行った際に院内の様々なデータが一元管理でき、そのデータを時系列で確認できるということで、文書管理システム以外のシステムもアストロステージを検討したいと考えておりました。

選定のポイントはコストを抑えることと  
問合せ先の簡略化

電子カルテ導入という多額のコストがかかる中で、いかにコストを抑えることができるかということ意識して選定していました。

これまで複数のメーカーで構成されていた検査部門システムでは、各メーカーへの保守料が必要となり、問い合わせも内容の切り分けを行った後該当メーカーへ連絡を行うという手間がかかりました。

アストロステージ 1 社に纏めることで、保守料の大幅なコストダウンや問い合わせ先の簡略化ができることにメリットを感じました。さらに病診連携システム・RIS・Report・DICOM G/W という当院で必要な機能が 1 社から提供できるという点、レポートにおいては病院からの要望で様々な書式が提供できるということでアストロステージを採用しました。



導入システム	
DICOM 画像管理システム	Nazca
RIS システム	NazcaRIS
診療情報統合システム	STELLAR
ドキュメント作成&管理システム	STELLARReport
地域連携システム	STELLAR.NET
画像キャプチャシステム	ARKGate

導入効果

院内作業の効率化

これまでは書類が到着しないと内容の確認ができませんでしたが、書類の発生場所でスキャンすることで、書類の到着を待つことなく短時間で確認ができるようになりました。また、院内のほとんどの検査機器とサーバを接続することで 1 つの端末で検査結果を参照することができ、検査レポートも検査画像と直接リンクしているため記載・参照が容易になりました。

また、RIS を各検査部門に設置することで進捗状況の確認が容易になり、検査漏れも予防できました。

病診連携システムにおいては院内とほぼ同様の情報を病院・クリニックに提供することができるようになりました。



システム管理者と放射線科技師の皆さん

松山市民病院：システム導入時期 / Sep 2013



当院は 1956 年 6 月 1 日に「市民による、市民のための病院」として開設され、今年で創立 60 周年を迎えました。昨年南棟の建て替え工事も完了し病床数も 432 床となりました。  
当院は理念として「地域住民のために存在する」「高度急性期医療を目指す」「思いやりの医療をもって地域社会に貢献する」を掲げています。

所在地：愛媛県松山市大手町 2 丁目 6-5

病床数：432 床

診療科：消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・内科・神経内科・心療内科・  
心臓血管外科・外科・呼吸器外科・脳神経外科・整形外科・泌尿器科・婦人科  
歯科／口腔外科・小児科・眼科・耳鼻咽喉科・皮膚科・形成外科・麻酔科  
リハビリテーション科・放射線科・病理診断科・救急科

今後の期待・要望

ユーザの要望・意見を取り入れた対応・システム構築ができ、アストロステージを選択したことは間違っていないと感じています。これからもユーザの視点に立ち、ユーザが常に何を望んでいるかということ意識して対応してください。

今後の方針

高度急性期・急性期医療では専門各診療科の質向上とチーム医療を推進し、亜急性期・回復期医療では地域包括ケア病棟や地域連携室、訪問看護課を活用し、福祉・介護をも包括・統合的に捉えた医療が提供できる急性期病院を目指しています。

システム構成図

